

腹ノ下方ニ下リ其中央線ニ在リ其上ニ四ツノ上ヨリ下へ懸垂セルモノ、切口アリ(29)(30)其兩外側ニアル三角ノ倒立セルモノ(29)ハ腎ニシテ其下ニアル囊(31)ハ各方ノ輸尿管ナリ又中央ノ瓣(30)ハ精巢(女性ナラハ卵巢)ナリ

第七、肛門ノ前ノ胴切(G)前ノ胴切(F)ト異ナルトコロハ生殖線及腎ノ體ヲ見ルコトナクシテ只輸尿管(31)カ消食管ノ左右ニ現ハル、ト腸(20)カ腸間膜ニヨリテ脊動脈直下ノ體壁ニ鈞ラル、コトナリ

第八、肛門ノ後ノ胴切(H)上方ノ長キ突起(32)及下方ノ短キ突起(32)ハ第二脊緒ト臀緒ナリ體腔及凡テノ内臓ハ見ルベカラズ又靜脈管(33)ハ一本ニ爲ル之レ他ノ魚類ノ尾靜脈ニシテ其上ニアルハ尾靜脈ナリ(ツック)

圖中ニ用井シ數字ノ解

- 1 腦蓋
- 2 耳蓋
- 3 鼻孔
- 4 唇軟骨
- 5 唇軟骨
- 6 舌軟骨
- 7 舌軟骨
- 8 項眼
- 9 鼻孔
- 10 眼
- 11 頭ノ軟骨
- 12 咽腔

シバエビ

- 13 舌軟骨
- 14 脊髓索
- 15 脊索
- 16 耳ノ軟骨
- 17 臑ノ中央管
- 18 甲狀線
- 19 臑囊
- 20 腹動脈
- 21 臑孔及其軟骨
- 22 臑筋ノ軟骨
- 23 神經突起ニ當ル結締組織塊
- 24 前原始靜脈
- 25 後原始靜脈
- 26 心臟
- 27 肝脈
- 28 生殖器
- 29 腎臟
- 30 右輸尿管
- 31 左輸尿管
- 32 第一脊緒
- 33 尾靜脈

編者申ス本文前回分ヲ論說ニ入ルベキニ誤テ雜錄中ニ編入セリ依テ茲ニ御斷申候

雜 錄

●シバエビ は産額甚だ多くして經濟上重要なるに拘はらず、予の知る處にては今日に至るまで其種名を適當に査定したるものなし、今日までは *Peneaus cusis* 或は *Peneaus monoceros* として知らる、然れども此二つの學名は同一種のものゝ異名と認められ、且つ其記載及び圖を見るにシバエビに當らずしてモエビと稱せらるゝものに當る、然らばシバエビの學名は如何、此を知らんと欲して予は甚だ苦心せり、本邦に於て特に東京に於てエ

明治三十三年七月十五日

シバエビ

ビ類を採集するものは必ず最初に此種を得るなるべく、従つて最も早く學者間に其名を知られたるならんと思ひ信じればなり、從來のクルマエビ類の査定に用ゐられたる區別は數種のものゝ區別するには十分なりしならんが甚だしく近似したる種類の多數を發見したる今日にては大に其不十分なるを覺え、從來の査定法は綿密ならざる爲シバエビは多分モエビと混同せられたるものならん

シバエビとモエビとは全く別種なり、其區別は波江氏の記載(第七卷三三二頁同卷三七五頁)を見るも明なり、予は最初にシバエビを *Panaeus monoceros* としモエビを新種と考へたり、然れども今は其非なることを知りシバエビを新種なりと思はず、依て此に *Panaeus pallidus* の名を附けんとす

此エビに就ては波江氏既に圖を以て委しく記述せられしも今予は新しく命名したるにより予の眼に映ずる特徴を記して参考に供す

シバエビ アカヒゲ、シロエビ、ホヅエビ、

殻皮は薄くして柔く數多の不規則にして淺き溝を有す、

第九卷

二七六

此等の溝の中には細毛密生す。

舳狀突起は先端に到るに従ひ漸々細く且つ少しく上に曲れり、其齒は通常七八個なり、其先端齒なき部分は其齒のある部分の凡う五分の二の長さを有す、甲の正中線には舳狀突起に續き極めて微なる隆起あり又肝齒(肝臟ノ上ニル齒狀起)と甲の後端との間に少しく曲りたる微なる隆起あり

第三乃至第三脚の第二節に各一棘あり、雄に於ては第三脚の棘甚だしく發達し其先端は第四脚の中央に達す、且つ其先端特に太く鞘を被るものゝ如く或は捕鯨銛に似たり、又雄にありては第四及ひ第五脚の第四節に齒あり

貯精腔の中央瓣は左右兩瓣の基部に達し其處に於て左右に開く、左右の瓣は中央瓣兩側の全縁に沿ふて密接しその下に貯精腔を控ゆ、この腔内に精液を貯藏するものは中央瓣下部の開きたる處に乳白色を帯べる木葉狀のもの附着す

第一腹環節下縁に切れ込あり、雄に於て特に著し、又腹

環節正中線には第一環節より第六に至るまで隆起あり、第一腹肢の内枝は左右のもの相合して略ほ筒形をなし其前端に上方に曲り且つ振れたる一對の細長き突起あり、腹肢の柄には其幅の畧ほ三分一に當る溝ありて細毛其間に生ず、雄に於ては第六腹肢の柄に突起あり尾環節には中央に淺き溝あり、且つ其兩側に各二條の淺き溝あり

東京灣、伊勢海、瀬戸内海、鹿島縣等に産す

多くは十尋以内の沙底に産す、幼稚のものは干瀉の沙中に埋没して住す、秋期には大群を作る

大サ四寸八分に達す、三寸五六分より雌雄共に成熟す、滿一年にして成熟に達するか如し、二ヶ年の壽命を保つものもあり

産卵期は七月より九月に至る、卵巢は綠色を帯び、體の全長を走る、六月より精包を受取る

色は淡黄にして褐色の色點數多あり、扇形部の端は綠色なり、又觸鬚は赤し、クルマエビ屬中最も見榮なきもの

なり、此エビは脆弱にして死し易し、故に腐敗することも早し、灣内淺處に夥しく産し、處によれば揚操網、六人網等の規模大なる網を用ゐて此を漁す胃中に甲殻類、貝類の堅き部分の破碎せられたるもの、砂粒、單細胞藻類等を見る

●簡便實驗法

生活のまゝ諸部を顯微鏡にて實驗し

又教場にて衆生徒に之を示すは至難の業の一に屬す例へば毛細管の組織間に於ける配置、其中に行はるる血液の循環、生きたまゝの細胞、血球、管の大小によりて循環速度に差ある事、色素細胞の多角形なる上皮細胞の下に配布さるることの如き是なり而して斯る場合は實驗者に至大の快味を興ふるものなり今世上普く用ゐらるる法は蛙の蹠ミヅカキ又は蛙兒の尾なり是れ其廣さの割に薄くして能く光線を通過せしむるか故なり然れども是等の動物は時により又場所に限り現はるること第一の不便にして又物體板イテの上に安置するに多少の不便あり素より大脳を傷くるときは取扱には便利多けれども手馴れぬものには面倒